

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

益田市

2 地域再生計画の名称

益田市歴史・芸術文化・観光のまちづくり再生計画

3 地域再生の取組を進めようとする期間

平成16年6月から平成20年3月

4 地域再生計画の意義及び目標

地域再生計画の意義

益田市は島根県の最西端にあって山口県に接し、山陰と山陽を結ぶ交通の要衝地として発展してきた。しかし、昭和30年に57,883人であった市の人口は、少子高齢化のなか、平成16年3月末現在50,022人まで大きく減少し、農協や学校の統廃合、商店街の空き店舗の増加など生活機能の低下を招いている。また、平成14年には山陰地方で唯一の日本一小さい競馬場として戦後長らく親しまれてきた益田競馬場も売り上げの減少による赤字が続き廃止となるなど、活気が失われた状態となっている。

このような状況の中で益田市の再生を図るためには、益田市が持つ歴史や芸術文化を再検証し、これらを有効的に活用する必要がある。

歴史的・文化芸術の検証

益田市が全国に誇れる歴史的資産をあげると、全国的にも類例の無い大規模な土塁跡が現存している三宅御土居跡や七尾城跡があり、これは平成10年に文化庁で開催された「中世城館遺跡・近世大名家墓所等の保存検討委員会」において第一級の遺跡として国指定候補として認定されている。

また、人物では、万葉集に多くの歌を残した柿本人麻呂や、わが国の美術史上においても画聖として、最高の地位を得た一人である雪舟が益田市で晩年を過ごしている。明治以降においては無声映画の弁士や漫談家として活躍した徳川夢声があり、近年ではN

H Kの朝の連続ドラマ「さくら」をはじめ、脚本家として活躍する田淵久美子氏を輩出している。

文化芸術的資産としては、わが国唯一古来からの形で残っているとされる島根県無形文化財の益田系あやつり人形や、「大蛇」をはじめとする演目で、子どもから大人までに親まれ、八調子でテンポが速く、勇壮できらびやかな衣装で舞う石見神楽がある。

このような歴史・芸術文化的土壌から、百人一首のカルタが盛んで、高校生が全国大会で優勝するなど、優秀な成績を収めており、益田市では毎年4回の大会を開催し、その中のひとつである「人麿の里・全国カルタ競技益田大会」は東京都や大阪府、京都府、福岡県などから170名の参加があるなど全国規模のものとなっている。また、演劇等では地域・職域を問わず、小学生から大人までの多くの人が参加し運営する市民参加型のミュージカルが開催され、出演者や舞台スタッフ約300名をはじめ、それを支える多くの市民や団体の交流が行われている。

地域再生計画の目標

新しい文化芸術への取り組み

平成17年秋には島根県芸術文化センター（愛称グラントワ）が完成する予定となっており、美術館部分では石見縁の美術品やファッションを中心とした展示が行われ、大ホール部分では市民が中心となって参加するミュージカルや吹奏楽、邦楽の演奏や神楽が行われるなど、地域の人々の文化交流に留まらず県外までも交流を深めていきたい。そのために、島根県芸術文化センターで展示される美術品やミュージカル・コンサートなどの予定を、情報誌・ホームページによって全国へ情報発信するなどボランティアで運営を支える「島根県芸術文化センター支援協議会」や、小学生以上の益田市周辺地域の6,000人を超える人々が加入する「グラントワ応援団」などを通じて、県外・全国の人々・芸術文化とのコラボレーションを図り拡大する中で、文化芸術の振興や伝統芸能の継承の情報発信地として構築する。

広域的な観光地の連携

今年度西日本で唯一国土交通省より観光交流空間づくりモデル事業に認定されたことにより、美術館回廊構想など県境を越えて萩市、津和野町と連携し、競争させることによって3市町の活性化を図っていく。市の年間観光客がおよそ35万人から38万人台を推移するなか、県外客の割合が平成15年度が平成10年度との比較で46%から2

9%に落ち込んでおり、萩・石見空港を窓口に東京、関西方面からの観光客を集め、益田市の観光はもとより、萩市、津和野町を回遊する観光の拠点としての整備が緊急の課題である。そのためには、3市町のボランティアガイドの勉強会等を通じて交流促進を行い、3地域の紹介も出来る人材を育成し、若い世代のガイドの育成を行うなど積極的なPR活動を推進する。

商店街の取組み

商店街では、身近な題材をテーマとした講演会、研修会を実施し、イベントの企画や共同事業などをボランティアで企画・参加するTMOサポーターズクラブ(仮称)の設立の支援などを積極的に展開して、やる気のある人材を育成し、自発的な住民の交流ネットワークを構築する。また、益田市を訪れる観光客の間で人気のある日本海の新鮮な魚介類や地元で取れた新鮮な野菜を販売する朝市を充実させる。

これらの、歴史的な資産や伝統芸の後継者、文化芸術を通じて構築された市民グループ、いろいろな大会やイベントの参加者、これらの観賞や参加を目的に益田市を訪れる観光客、商店街を中心として育成されたグループなど多くの人の輪が連動し、賑わいがある新たな魅力的な観光地として再構築し、より一層集客を図り地域の再生を図ることを目標とする。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

歴史・文化芸術・観光と産業の連携

益田市では、この計画を推進するにあたり、歴史的資産の環境整備や、観光施設の充実や有効利用を図る。また、島根県芸術文化センターを核として、地域住民が文化芸術にふれあう機会を設けるだけにとどまらず、地域文化の人材育成や美術館の市民参加型の継続性のあるイベントを企画する団体を支援し、地元との協力や連携を深める中で、商店会などと連携して益田市特産の天皇賞に輝いたメロンや全国有数の清流として知られる高津川のアユなど地元の特産品を使った新しい商品の開発を行い、継続的に集客を図るイベントなどを実施するなど、交流人口を増化させ、滞在期間を増やすことにより、益田市への集客を促進する。

集客効果

これらの計画の実施にあたり、益田市の年間観光客入込数については、過去5年間で

34 万人から 38 万人程度であるため向こう 5 年間で 20 パーセント増の 45 万人程度とする。このうち、県外客の比率についても平成 10 年度時点の 45 パーセント程度まで回復させ、宿泊比率も 30 パーセント程度で推移しているため、40 パーセントまで引き上げて滞在期間の延長を図ることとし、中世から交流があり、益田市との友好都市である中国寧波市や韓国などとも国際交流を深め、北東アジア地域の外国人客を中心に年間 100 人程度から 500 人程度まで増加させる。

商店街の活性化効果

これらの集客効果によって、地域の交流人口が増加し、商業関係者の収益を増加させることによって、新しい事業への展開や拡充が可能となり、地域経済の活性化と地域雇用の創造が見込める。商店数について、平成 11 年度と比較すると、394 店舗あったものが 343 店舗まで減少していることから、空き店舗、空き地を有効に活用し当時の 400 店舗程度までを回復させる。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

1 0 8 0 3 文化芸術による創造のまち支援事業の活用

2 1 2 0 2 8 まちづくり交付金の創設

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

○益田市歴史を活かしたまちづくり計画の推進（平成 6 年 6 月）

- ・益田の街を代表する古墳や中世期の益田氏関連の三宅御土居跡、七尾城跡等の歴史的な遺産の保全と周辺環境の景観の保全や統一を図る。
- ・歴史的遺産を活かし、地区居住者や観光客などの歩行者優先の交通体系確立と駐車場の確保

○浜田・益田地方拠点都市地域基本計画に基づく計画の推進（平成 8 年 9 月）

- ・浜田市と益田市を中心に江津市、三隅町とも連携した都市基盤整備を進め、広域的な地域交流の拠点として、「職・住・遊・学」の兼ね備わった都市圏を形成することによって、県西部の地域全体の振興を図ることを目的とする。
- ・益田市では「益田みらい農業都市」として農業拠点の整備と「益田駅前拠点」として市街地再開発事業を実施し、ＪＲ益田駅前に再開発ビルを整備し商業・業務

施設、ホテル、駐車場、保健と福祉の機能を持つ保健センターの整備を行う。

○ 中心市街地活性化基本計画に基づく計画の推進（平成 13 年 3 月）

- ・ 益田駅前再開発ビル整備、街路整備を中心とした都市基盤整備と土地の高度利用を行う「にぎわいのあるまちづくりゾーン」、益田氏城館跡の国指定文化財の指定や歴史的建造物、景観の保全や住環境の整備を行う「歴史・文化を活かしたまちづくりゾーン」、島根県芸術文化センターを中心にした周辺整備や環境整備を行う「ふれあいの芸術文化ゾーン」の 3 つのゾーンをそれぞれの目的で整備し、回遊性を高めて連携させることにより、中心市街地の活性化を図る。

○ 観光交流空間づくりモデル事業計画に基づく計画の推進（平成 16 年 6 月）

- ・ 益田市、津和野町、萩市の自治体や民間団体などが共同で、この地域が持つ、雪舟などを中心とした中世の文化、中世から明治維新までの歴史、近世の文学や石見神楽・鷺舞などの伝統文化、萩焼・和紙などの伝統工芸、雪舟や歌麿・写楽・北斎などの浮世絵や安野光雅・森英恵などの美術館回廊構想やこの地域の豊かな自然を体験・体感するなど、観光資源を有効に活用した広域観光ゾーンの形成を目的とする。

○ まちづくり・観光交流団体との交流促進

- ・ 島根・山口県境地域共同活動推進会議、ながと路観光連絡協議会、島根県芸術文化センター(仮称)支援協議会、駅前地区街路事業推進協議会、益田市観光協会、益田観光ガイド友の会、MasudamianLots、益田まちづくり塾、益田商工会議所との連携

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

○ 益田市歴史を活かしたまちづくり計画の推進（平成 6 年 6 月）

- ・ 益田の街を代表する古墳や中世期の益田氏関連の三宅御土居跡、七尾城跡等の歴史的な遺産の保全と周辺環境の景観の保全や統一を図る。
- ・ 歴史的遺産を活かし、地区居住者や観光客などの歩行者優先の交通体系確立と駐車場の確保

○ 浜田・益田地方拠点都市地域基本計画に基づく計画の推進（平成 8 年 9 月）

- ・浜田市と益田市を中心に江津市、三隅町とも連携した都市基盤整備を進め、広域的な地域交流の拠点として、「職・住・遊・学」の兼ね備わった都市圏を形成することによって、県西部の地域全体の振興を図ることを目的とする。
- ・益田市では「益田みらい農業都市」として農業拠点の整備と「益田駅前拠点」として市街地再開発事業を実施し、ＪＲ益田駅前に再開発ビルを整備し商業・業務施設、ホテル、駐車場、保健と福祉の機能を持つ保健センターの整備を行う。
- 中心市街地活性化基本計画に基づく計画の推進（平成 13 年 3 月）
 - ・益田駅前再開発ビル整備、街路整備を中心とした都市基盤整備と土地の高度利用を行う「にぎわいのあるまちづくりゾーン」、益田氏城館跡の国指定文化財の指定や歴史的建造物、景観の保全や住環境の整備を行う「歴史・文化を活かしたまちづくりゾーン」、島根県芸術文化センターを中心にした周辺整備や環境整備を行う「ふれあいの芸術文化ゾーン」の 3 つのゾーンをそれぞれの目的で整備し、回遊性を高めて連携させることにより、中心市街地の活性化を図る。
- 観光交流空間づくりモデル事業計画に基づく計画の推進（平成 16 年 6 月）
 - ・益田市、津和野町、萩市の自治体や民間団体などが共同で、この地域が持つ、雪舟などを中心とした中世の文化、中世から明治維新までの歴史、近世の文学や石見神楽・鷺舞などの伝統文化、萩焼・和紙などの伝統工芸、雪舟や歌麿・写楽・北斎などの浮世絵や安野光雅・森英恵などの美術館回廊構想やこの地域の豊かな自然を体験・体感するなど、観光資源を有効に活用した広域観光ゾーンの形成を目的とする。
- まちづくり・観光交流団体との交流促進
 - ・島根・山口県境地域共同活動推進会議、ながと路観光連絡協議会、島根県芸術文化センター(仮称)支援協議会、駅前地区街路事業推進協議会、益田市観光協会、益田観光ガイド友の会、MasudamianLots、益田まちづくり塾、益田商工会議所との連携

別紙

1 支援措置の番号及び名称

10803 文化芸術による創造のまち支援事業の活用

2 当該支援措置を受けようとする者

益田市「文化芸術による創造のまち」実行委員会

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

益田市の文化芸術によるまちづくりを推進する観点から、当該支援措置を活用して、以下の取組を行う。

・ 益田系あやつり人形研修と体験学習

小学生以上を対象に全国でも貴重・希少な「系あやつり人形」メンバーの研修及び学校での体験学習を通じてメンバーの芸向上と後継者育成

・ 太鼓・神楽ワークショップ

小学生以上を対象に県内で活動している全国レベルの太鼓奏者今福 優氏を招いての太鼓ワークショップを開催し、氏が提唱している創作神楽を参加者とともに作り上げる。

・ ミュージカルワークショップ

中学生以上を対象に公演の鑑賞以外に県民参加ミュージカルの出演者等の参加の場を提供し、地元輩出の脚本家創作の作品の出演を目標とする。

・ 邦楽ワークショップ

小学生以上を対象に日本音楽集団代表で地元出身の田村拓男氏を招き、地元邦楽演奏者の技術の向上を図る。

・ 管楽器ワークショップ

小学生以上を対象に管楽器奏者岡崎耕治氏を招き地元管楽器演奏者の技術の向上を図る。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

2 1 2 0 2 8 まちづくり交付金の創設

2 当該支援措置を受けようとする者

益田市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

益田市の歴史・芸術文化等の特性を活かし、観光に立脚したまちづくりを行うため、観光拠点である JR 益田駅の交通結節機能の強化を図るとともに駅前再開発ビルや島根県芸術文化センターへの集客効果の地域全体への波及と商店街の活性化を促進するために当該支援措置を活用して、以下のようなまちづくりを行う。

・情報案内板の整備

人が集中する広場に情報案内板を設置し、観光施設やイベントの案内を行う。

・商店街の歩行環境整備

商店会で取り組むテナントミックス・管理事業やチャレンジショップ、広場を利用したイベントなどを支援するために歩道の美装化を行い、歩行者が歩いて楽しい街路空間を作る。

・駅前交通広場内の修景

駅前広場の環境機能、情報案内機能を強化して来訪者の回遊効果を高めるためにベンチや植栽、シェルター、モニュメント等を整備する。

・北口交通広場の整備

JR 益田駅の北側は交通広場が無く、閑散とした状態なため、北側の玄関口として広場を整備し交通結節機能の強化を図る。